

講義名	専門基礎演習		
科目区分	特別研究		
担当教員	中島 孝子		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1時限	授業形態	
	2019年度 経済学部 経済情報学科 情報システムコース/2019年度 経済学部 経済情報学科 経済情報コース /2019年度 経済学部 経済情報学科/ 2019年度 経済学部 経済情報学科/ 2019年度 経済学部 経済情報学科 地域まちづくりコース/2019年度 経済学部 経済情報学科 現代経済コース/2019年度 経済学部 経済情報学科		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>★注意★： 緊急事態宣言に伴い、当分の間、本授業はオンライン授業を進めることになりました。それに伴い、授業の進め方、提出課題、評価の基準等は、当初の予定から変更されることが予想されます。</p> <p>まず、「提出課題」欄にある前の部（ゼミ紹介・ゼミ訪問・申込書作成）については、当初の予定から変更され、オンラインで行うことになりました。詳細は決定次第、このシラバスに反映したり、「講義連絡」でお知らせしたりします。</p> <p>RYUKA Portalの「講義連絡」やメール、及びこのシラバスをこまめにチェックするようにして下さい。</p> <p>1年次の「気づきの教育」を経て見出した、将来の「なりたい自分」の実現に向けて、自ら選択した学部・学科・コースでの2年次以降の学びに円滑に移行できるよう、専門科目を学ぶ際に求められる基礎的な能力・技能のさらなる向上を図ることを目的とする。「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、汎用的な能力・技能を育成するとともに、各学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図る。これらを通じて、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき5項目の資質・能力を身につける上での確かな基盤を築く。</p>			

到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、文書作成能力、プレゼンテーション能力等を含む基礎的なコミュニケーションの能力・技能を身につけている。</li> <li>・学部・学科の専門分野、研究演習の研究対象分野に応じて必要とされるレベルの、Word、PowerPoint、Excel等の操作能力・技能を身につけている。</li> <li>・将来の「なりたい自分」の実現に向けて、それに即した適切な専門ゼミ（「研究演習1」）を選択できる。</li> </ul>			

提出課題			
<p>経済学部の専門基礎演習は、前の部10回と後の部5回から構成される。</p> <p>前の部は、第1回のガイダンス・ゼミ紹介等を経て、第2～9回において経済学部開講の専門ゼミ（「研究演習1」）を訪ね、個別ゼミ訪問をしてから、第10回において研究演習1第1次募集申込書の作成を行う。第1～9回は、毎回のワークシートの完成が課題として、そして第10回は、申込書の事前下書きと申込書の完成が課題として課される。</p> <p>後の部は、第11～15回においてクラス別に能力・技能の向上と育成のための演習を行う。提出課題は担当教員により異なる。詳しいことは演習時に説明する。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>第1～9回の提出されたワークシートは、担当教員による確認等を経てから受講生に返却される。研究演習1第1次募集申込書に対しては、10回において担当教員がチェック・確認・アドバイス・添削等を行う。11回～15回の提出課題に対するフィードバックは担当教員により異なる。詳しいことは演習時に説明する。</p>			

評価の基準			
<p>前の部50%、後の部50%の割合で評価を行う。</p> <p>前の部は、第1～9回のワークシート、第10回申込書の下書きと完成の度合い、授業への参加態度によって評価する。後の部の評価方法は担当教員により異なり、詳しいことは演習時に説明する。</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>この科目は、継続的な演習を中心とした科目である。欠席すると以降の演習に支障をきたす恐れがある。このため、目標達成のためには、初回から最後まで全て出席すること。</p>			

教科書	
. 使用しない。	

プリント資料及び参考文献	
<p>プリント資料は、必要に応じて授業中に配布する。参考文献は、必要に応じて随時紹介する。</p>	

授業計画	
<p>1. 合同ガイダンス・ゼミ訪問説明・ゼミ紹介</p> <p>2～9. 個別ゼミ訪問</p> <p>10. 研究演習1第1次募集申込書作成</p> <p>11～15. 基礎的な能力・技能の向上と汎用的な能力・技能の育成のための演習</p>	

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>配布資料などで予定箇所を予習し、講義終了後には当該箇所を復習すること。個別ゼミ訪問に対しては、予習として事前に訪問予定ゼミ（研究演習1）のシラバスを熟読し、予備知識を備えておくこと。1回の講義に関する下調べと事後確認に4時間程度をかけることを目安とする。なお、研究演習1第1次募集申込書の下書きの作成や、その他の宿題やレポート作成もその中に含む。</p>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	

実務経験の有無及び活用	

備考	